

東京2020大会におけるホストタウン交流

令和3年9月

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局

東京大会時におけるホストタウン交流の取組

- ホストタウン：東京大会の開催により、多くの選手等が来訪する機会を国全体で最大限に生かし、**全国の地方公共団体と大会参加国・地域の住民等がスポーツ、文化、経済等の多様な分野において交流**し、地域の活性化等に生かすもの
 ※**オリンピック史上初となる取組**で、オリンピック休戦決議でも取り上げられている
- 住民等と、①大会等に参加するために来日する選手等、②大会参加国・地域の関係者、③日本人オリンピック・パラリンピアンが、様々な交流を展開
- 大会時には、**コロナ禍の制約においても様々な交流**が行われたが、**大会終了後も継続して交流**を実施

【ホストタウン登録】

登録数：462件 自治体数：533（全国自治体数1,788） 相手国・地域数：185（全相手国・地域数207）

【ホストタウン活動の概要】

- ・ホストタウンでは、スポーツのみならず、文化（音楽、踊り、食など）、教育、経済など様々な分野での交流が展開
- ・コロナ禍でも、相手国の国歌を歌う、食文化を学んで地元食材を使った料理を開発、応援メッセージ動画を交換し合う、選手と子どもたちがオンラインで交流するなど活発な取組を実施
- ・大会期間中（7月24日～9月5日）には「ホストタウンハウス」（オンラインイベント）を開催し、これまでのホストタウン活動の集大成となる動画、同じ国を相手国とするホストタウンが連携したプロジェクトなどを展示
- ・相手国の方々とホストタウン住民と一緒に選手をオンラインで応援する取組も実施し、2021年を越えた絆を深めた

【東京大会時の事前キャンプ・事後交流】

ホストタウン等では、内閣官房オリパラ事務局が作成した「手引き」を踏まえて、「選手等受入れマニュアル」を作成し、感染症対策を講じた上で受入れを実施

| | | 自治体数 | 相手国・地域数 | 選手等の人数 |
|---------|--------|------|---------|--------|
| オリンピック | 事前キャンプ | 214 | 105 | 7,353 |
| | 事後交流 | 22 | 16 | 191 |
| パラリンピック | 事前キャンプ | 71 | 52 | 1,735 |
| | 事後交流 | 13 | 6 | 33 |



[ホストタウンハウスの展示例]

事前合宿

■群馬県前橋市×南スーダン（陸上）

選手団を1年9か月受入れ。20名以上の通訳ボランティアが協力し、日常的に市民と交流したほか、学校へも積極的に訪問。大会で南スーダン記録を樹立した選手は「前橋市民のサポートのお陰でベストの走りができた」と感謝。

■群馬県太田市×オーストラリア（ソフトボール）

6月から47日間に及ぶ事前合宿を実施。合宿中には、園児らのスタンドからの応援、小学生から絹でできた記念品の贈呈等の交流を実施。選手達からは「太田市は第二の故郷のよう」「感謝の念に堪えない」とコメント。

■広島県広島市×メキシコ（サッカー）

子どもたちが折り鶴で作った首飾りや手紙をプレゼント。選手全員が首飾りを掛けて記念撮影を行った。選手からも、お礼の手紙やメッセージが届けられた。

■山形県村山市×ブルガリア（新体操）

合宿中にオンラインでの練習会場の生中継、地元小学生製作の応援動画、選手団からの応援メッセージ動画等の交流を実施。チームは金メダルを獲得し、帰国時に「優勝できました。ご声援いただいたみなさんありがとうございました。皆さんは我々の第2の家族です。」とのお礼のコメントがあった。



南スーダン選手と合宿時の交流（前橋市）



幼稚園児がオーストラリア選手を応援（太田市）



ブルガリア選手団とのオンライン交流（村山市）

大会期間中の交流

<開会式>

■ 岩手県八幡平市×ルワンダ

市特産のリンドウの現地実証栽培をきっかけにホストタウンに登録。陸上、競泳、自転車の事前合宿を受入れ、地元高校生とのオンライン交流等を実施。選手団は開会式でリンドウを持って入場し、友好の証を示した。

■ 山形県鶴岡市・西川町×モルドバ

アーチェリー、柔道、陸上（以上鶴岡市）、カヌー（西川町）の事前合宿を受入れ。

選手団は開会式で鶴岡市・西川町・モルドバNOCのマーク入り鶴岡産シルク製スカーフ・チーフを着用して入場。

■ 福島県猪苗代町×ガーナ

野口英世博士の繋がりから、ホストタウンに登録。ウェイトリフティング、競泳、ボクシング（以上オリ）、陸上、パワーリフティング（パラ）の事前合宿を受入れ。公開練習のほか、子供たちによる激励会を行い、応援メッセージカードと折鶴のレイをプレゼント。パラ開会式で、選手団はレイを首から下げて入場した。

<大会中>

■ 東京都文京区×パラリンピック難民選手団

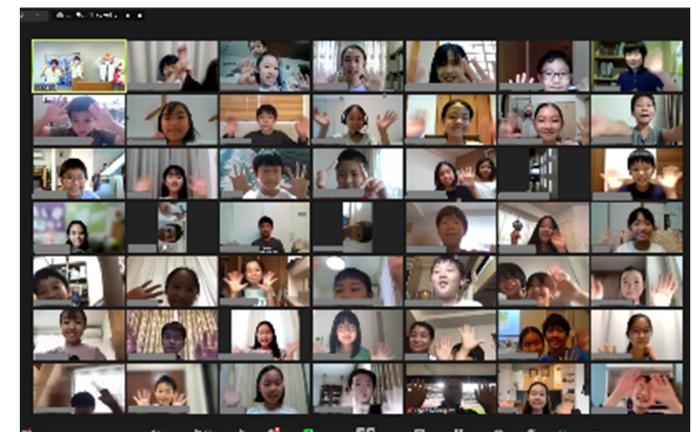
難民に対する理解促進・支援に取り組んできたことから、ホストタウンに登録。記者会見で子供記者11人が選手にオンライン取材を行ったほか、大会中に実施された小学生とのオンライン交流において、国立競技場から参加した選手団長から「皆さんからの応援は選手にも伝わっています。本当にありがとう。」とお礼の言葉があった。



八幡平市産リンドウを持つルワンダ選手団



ガーナ選手団は折鶴のレイを開会式で首から下げて入場。
猪苗代町での合宿中には折鶴の作り方を教わる場面も



パラ難民選手団と文京区小学生の交流

事後交流

■長野県松川町×コスタリカ

大会出場後のオリ・パラ選手が訪問し、中学生が企画運営した歓迎交流会やスポーツ大会などに参加。子供たちからは「オリンピック選手になるまでの努力や家族の支えなどの話を聞けるのは一生に一度しかない経験」、選手からは「地球上の全く違う場所で私たちを応援してくれる人がいることにとっても感激した」との声が上がった。特に、コスタリカのパラリンピック選手団は、同国初となる金メダルを披露。子どもたちは目を輝かせた。

■静岡県富士宮市×スペイン

事前合宿を行った空手の金メダリストが競技終了後に改めて市を訪問。子供たちから手紙の贈呈、選手は競技の実演を行うなど市民との交流を実施。帰国時に選手から「富士宮の素晴らしい皆さんご支援ありがとうございました。素晴らしい経験ができました。」との言葉を頂いた。

■愛媛県・松山市・新居浜市・伊予市×モザンビーク

事前合宿を行ったパラ陸上選手団が競技終了後に改めて各市を訪問。記念植樹や小中学生との交流、地元の障害者スポーツクラブとの合同練習などを実施。選手からは「自分はモザンビークで教師をしており、ここで学んだことを自国の子どもたちに教えてあげたい」「2年前の合同合宿で（スポーツクラブ代表に）トレーニングの仕方を教わってから痛みがなくなった。とても感謝しており、前からお礼を言いたかった」などの言葉を頂いた。



子どもたちからも「メダル」をもらった
コスタリカパラ選手団（松川町）



市民への報告会で、子どもたちから
手紙の朗読を受けるスペイン選手団（富士宮市）



地元の障害者スポーツクラブと交流する
モザンビーク選手団（松山市）

相手国を同じくするホストタウンが連携した交流

■ドイツ

岩手県雫石町、山形県鶴岡市、群馬県沼田市、岡山県真庭市、長崎県島原市の高校生が、日独の関係者にオンラインで取材し、「共生社会の実現」「地域活性化」について地域の課題を解決するための提言をまとめ、それぞれの自治体関係者に向けてオンライン発表を行った。

■米国

直接の交流が難しい中でホストタウンの魅力を身近に感じてもらおうと、12のホストタウンが地元の特産品を詰め合わせた「おもてなしギフトボックス」を制作。紹介動画をYouTubeで発信すると共に、オンライン交流会にて米国選手への贈呈式を実施。

■フランス

千葉県浦安市、いすみ市、兵庫県神戸市、姫路市の高校生が、東京大会期間中に地元を訪問したフランス人選手や事前合宿を支える市民の想いをインタビューし、新聞記事としてとりまとめた。またフランスの高校生とオンライン交流を行い、次期パリ大会に向けてホストタウンの経験を伝えるとともに、フランス版ホストタウン「Terre de Jeux」へのアイデアを出し合った。



【ドイツ】オンライン発表会



【米国】おもてなしギフトボックス



【フランス】日仏高校生交流

ホストタウンハウス

○東京大会期間中、ホストタウン交流の「これまで、今、そして未来へ」をテーマに、様々な取組をカテゴリやテーマ別にオンラインにて展示した。

○7月23日のオリンピック開会式から9月5日のパラリンピック閉会式まで45日間展示され、今後は、「Light Up Host Town」(<https://host-town.jp/house/ja>)にて閲覧可能（一部調整中）



外観イメージ



ウエルカムエリア



シアターエリア



食企画エリア



共生社会ホストタウンエリア



復興ありがとうホストタウンエリア

復興ありがとうホストタウン

■宮城県仙台市×イタリア

ソフトボール・パラ陸上・パラ水泳・車いすフェンシング・シッティングバレーの事前合宿を受入れ、公開練習のほか、距離をとっての質疑応答や、中学生が考案したスイーツを食べながらのオンライン交流などを実施。沿道から子どもたちが声援を送れるよう、バスの走行ルート工夫した。被災地の様子をVRで体験してもらう時間も設けた。

■福島県二本松市×クウェート

競泳・射撃・空手の事前合宿を受入れ、公開練習や子供たちとのオンライン交流を実施。空手選手団から市に対して「本当に家にいるような気分にしてくれてありがとう」「決して皆さんを忘れませんし、きっとすぐ二本松に帰ってきます」など感謝のメッセージが詰まった色紙が贈呈された。壮行会では復興状況を伝える映像を放映し感謝を伝えた。

※9月14日に「復興ありがとうホストタウンサミット」を開催し、相手国・地域との交流と、復興支援への感謝の発信を継続することを確認。



イタリアソフトボールチームの公開練習（仙台市）



スイーツを考案した中学生と
イタリア選手団のオンライン交流（仙台市）



沿道から子どもたちが声援を送る（仙台市）



クウェート空手選手団の公開練習（二本松市）



地元空手スポーツ少年団と
クウェート空手選手団のオンライン交流（二本松市）



映像で復興状況を伝える（二本松市）

共生社会ホストタウン

<共生社会ホストタウン>

■ 福島県福島市×スイス

東京2020大会を契機にバリアフリーニーズを掘り起こし、共生社会実現への体制づくりを推進。官民一体となったハード・ソフト両面のバリアフリーを実践し、市の取組に賛同し協力する団体・事業者は約270団体まで増加。障害当事者とともに中心市街地や温泉地でまち歩き点検を実施するなど、障害当事者の参画による取組を推進。

■ 静岡県浜松市×ブラジル

ブラジルパラリンピック14競技・選手団388名の事前合宿を21日間にわたり市内13会場、袋井市1会場で受入れ。パラカヌー選手団と市内チアリーディング団体とのオンライン交流では、子供たちが応援のダンスを披露するなどした。選手らは、「すばらしいサポートを受けて感謝している、浜松市の代表として大会に出場するつもりだ」と感想を述べた。

■ オンラインを活用したボッチャ交流会（秋田県大館市、秋田県仙北市、東京都西東京市、東京都武蔵野市）

高齢者や子供、障害の有無に関わらず誰でも楽しめるボッチャを中心に、パラスポーツの普及に取り組む共生社会ホストタウンの市民等が参加し、離れた場所にいる各チームがオンラインでボッチャの対戦を楽しむイベントを開催。参加者からは、「オンラインでのボッチャは初めてだが、充分楽しめた。新しい発見だった」と感想があった。

※9月11日に「共生社会ホストタウンサミットin福島」をオンラインで開催し、パラリンピアンを受入れを契機としたユニバーサルデザインの街づくりと心のバリアフリーの取組事例を共有するとともに、共生社会の実現に向けた取組を継続していくことを確認。



障害当事者参画のまち歩き点検（福島市）



ブラジルWパラ陸上練習風景（浜松市）



ブラジルWカヌーチームとのオンライン交流（浜松市）



オンラインを活用したボッチャ交流会